

議会だより

もくじ

一部事務組合等の報告	… 2～3
令和元年度の視察受入状況	……… 3
12月定例会一般質問	……… 4～7
会派紹介	……… 8～9
トピックス	……… 10
12月定例会の審議結果	……… 11
3月定例会のお知らせ	……… 12
編集後記	……… 12



須賀川市

第71号

令和2年2月15日発行

(須賀川市人口 75,753人 1月1日現在) [前年度比 △388人]

小学生が議場を見学



柏城小学校の皆さん(1月10日)



小塩江小学校の皆さん(1月14日)



大東小学校の皆さん(1月14日)

1月に、須賀川市立柏城小学校、小塩江小学校、大東小学校の6年生の皆さんが、議場見学に訪れました。

議場では、議員席や当局席に座ってみたり、傍聴席からの見え方を確認してみたりと、臨場感を味わっている様子でした。

ぜひ、今後の学習に役立てていただければと思います。



一部事務組合等の報告

当市が構成員となっている一部事務組合の状況について報告します。

須賀川地方保健環境組合

本組合は、須賀川市、鏡石町、天栄村の3市町村で構成されています。

去る令和元年10月31日に定例会が開催され、「平成30年度須賀川地方保健環境組合一般会計予算継続費の通次繰越しについて」「平成30年度須賀川地方保健環境組合一般会計予算継続費の精算報告について」「監査委員の選任につき同意を求めることについて」「平成30年度須賀川地方保健環境組合一般会計歳入歳出決算の認定について」「令和元年度須賀川地方保健環境組合一般会計補正予算(第2号)」の報告2件、議案3件が提案され、それぞれ了承、可決されました。

◇新ごみ処理施設

昨年の4月1日より本格稼働をし、現在まで大きなトラブルもなく順調に稼働しており、行政視察等、多くの視察を受け入れています。今後は、一般市民の施設見学の積極的な受け入れに取り組みます。なお、旧ごみ

処理施設の解体工事の進捗率は、全体工程の約36%(10月末現在)で、計画どおりに進んでいます。

◇新最終処分場

最終候補地において地区説明会を開催し、地元協議を進めてまいりましたが、地元の皆様の本事業に対するご理解のもと、令和元年11月15日に協定書を締結いたしました。



新ごみ処理施設

男史(議長) 久裕(副議長) 小野
栄美 藤一 佐藤 藤二 藤三 藤四 藤五 藤六 藤七 藤八 藤九 藤十 藤十一 藤十二 藤十三 藤十四 藤十五 藤十六 藤十七 藤十八 藤十九 藤二十 藤二十一 藤二十二 藤二十三 藤二十四 藤二十五 藤二十六 藤二十七 藤二十八 藤二十九 藤三十 藤三十一 藤三十二 藤三十三 藤三十四 藤三十五 藤三十六 藤三十七 藤三十八 藤三十九 藤四十 藤四十一 藤四十二 藤四十三 藤四十四 藤四十五 藤四十六 藤四十七 藤四十八 藤四十九 藤五十 藤五十一 藤五十二 藤五十三 藤五十四 藤五十五 藤五十六 藤五十七 藤五十八 藤五十九 藤六十 藤六十一 藤六十二 藤六十三 藤六十四 藤六十五 藤六十六 藤六十七 藤六十八 藤六十九 藤七十 藤七十一 藤七十二 藤七十三 藤七十四 藤七十五 藤七十六 藤七十七 藤七十八 藤七十九 藤八十 藤八十一 藤八十二 藤八十三 藤八十四 藤八十五 藤八十六 藤八十七 藤八十八 藤八十九 藤九十 藤九十一 藤九十二 藤九十三 藤九十四 藤九十五 藤九十六 藤九十七 藤九十八 藤九十九 藤一百

※須賀川市議会選出の議員

須賀川地方広域消防組合

本組合は須賀川市に本部を置き、1本部2消防署6分署1分遣所で構成され、須賀川市・岩瀬郡・石川郡の1市4町3村を管轄とし、207名の職員が24時間体制で4万9,635世帯13万1,843人の住民の皆様の安全安心を守っています。

平成16年改正消防法を経て平成18年6月に須賀川地方広域消防組合火災予防条例で住宅用火災警報器(住警器)の設置が全世帯に義務付けられ、13年が経過しました。住警器は古くなると、電子部品の寿命や電池切れなどで火災を感じしなくなることがあるので、定期的な点検と買い替え設置をお願いいたします。

管内では住警器の鳴動により、いち早く火災に気付き、火災発生に至らなかったケースもあります。しかし残念なことに管内の住警器設置率は73%、正しい箇所に取り付けられた条例適合率は49%と、県内でもワースト

水準です。

大切な命と財産を守るためにも、まだ設置がお済みでない住宅は速やかな設置をお願いいたします。

正晃(議長) 幸彦 幸善 和記
大寺 齊藤 高橋 熊谷 本田 加藤

※須賀川市議会選出の議員



石川消防署の新庁舎



須賀川地方広域消防本部及び消防署

公立岩瀬病院企業団

本企业団は、須賀川市、鏡石町、天栄村、玉川村の4市町村で構成し、地域医療の拠点施設として周辺地域住民の安心・安全の確保と健康増進に貢献できるように取り組んでいます。

去る令和元年11月5日に定例会が開催され、議長に須賀川市議会選出の大内康司議員が、副議長に鏡石町議会選出の木原秀男議員が選出されました。

「平成30年度公立岩瀬病院企業団病院事業会計資金不足比率について」「専決処分承認を求めることについて」「平成30年度公立岩瀬病院企業団病院事業会計決算の認定について」等の報告1件、議案4件が提案され、それぞれ了承、承認、認定されました。

また、企業長あいさつの中で、厚生労働省からの地域医療構想関連資料公表に伴う報道について説明がありました。このことについては、一定の基準を基に再検証の対象とされた全国42

4の公立・公的病院を公表したもので、「急性期病院としての診療実績」について当病院は該当せず、「近くに類似する医療機関がある」ことについては、郡山市が隣接することが要因とされたもので、診療実績が乏しいわけではなく、病院の再編や統合のため存続できなくなるものはありません。

大内 康司
(議長)
大河内和彦
溝井 光夫
市村 喜雄
鈴木 正勝

※須賀川市議会選出の議員



定例会開催の状況

《全国からの視察団を受け入れています》

令和元年度の受入状況

視察日	団体名		人数	調査項目
令和元年7月10日	島根県松江市議会	松政クラブ	2	市民交流センター tette について
令和元年7月16日	福島県南相馬市議会	新庁舎建設特別委員会	10	須賀川市庁舎における議会機能について
令和元年7月23日	東京都狛江市議会	自由民主党・明政クラブ	6	市民交流センター tette について
令和元年8月1日	京都府舞鶴市議会	創政クラブ議員団	6	中心市街地活性化及び観光振興の取り組みについて
令和元年8月16日	埼玉県草加市議会	公明党議員団	1	市民交流センター（中央図書館）について
令和元年10月29日	東京都府中市議会	市庁舎建設特別委員会	11	新庁舎の概要について

※写真は、東京都府中市 市庁舎建設特別委員会 視察の様子です。

計 6団体 36人



委員会室



議場



議場



横田 洋子

防災と安心・安全の
まちづくりについて

問 内水排水対策の早急な実施や再検討が必要である。牛袋地域は、アリーナ付近の下流域41・6haに対して上流域265・6haの田んぼや笹平池などがあり、これら広域の治水、利水が必要などところである。笹平川河川改良工事と田んぼダムの事業概要と効果について伺う。

答 笹平川河川改良工事は、釈迦堂川から東北自動車道まで約730mに分水路を設置する計画であり、平成30年度から工事を実施。上流域の雨水を釈迦堂川へ直接放流することにより、浸水被害を軽減する事が可能になる。田んぼダムは、水田の貯水機能を利用し、一時的に水を貯め、時間をかけて流すことで下流側

への集中的な雨水排水を抑制することができるとのである。

問 平成30年度の国の防災・安全交付金は、地方自治体からの要望額の半分程度になっているが事業の進捗状況と、田んぼダムの水位調整の協力についての考えを伺う。

答 笹平川河川改良事業は事業費ベースで6・3%、田んぼダムは、計画面積に対して15・1%である。引き続き国や県に補助交付額の増額を要望し、事業進捗を図りたい。田んぼダムの効果実現には、水田耕作者の理解と協力が不可欠である。区域拡大への協力をお願いしていく考えである。

その他の質問項目

- ①台風第19号による被災者支援について
- ②子育て環境の拡充について
- ③農業の担い手対策事業について



小野 裕史

文化の継承について

問 俳句を中心とする優れた和の文化が引き継がれているが、これらを次世代へ継承していくため、どのような事業を行っているか伺う。

答 特に俳句文化の振興に力を入れており、幅広い世代が親しめるよう、毎年、芭蕉記念館において俳句ポスト事業や、小学生を対象とする子供俳句教室などを実施している。

問 風流のはじめ館は、具体的にどのような施設となるのか、建物概要とあわせて伺う。

答 様々な世代が交流できる場とすることを目的とし、木造平屋建てで面積は732・58㎡。特色のある空間を構成しており、和室3室や多目的室2室のほか、主に俳句関連資料等の見学スペース

を配置している。

問 風流のはじめ館の運営について伺う。

答 市が直接管理運営する考えである。

認知症施策の推進
について

問 どのような施策に取組んでいるのか伺う。

答 市や各地域包括支援センターにおいて相談対応を行うとともに、居宅介護支援事業所による介護保険サービスの提供を行っている。早期の対応が必要なケースには、認知症サポート医、理学療法士、地域包括支援センター職員等の専門職で構成した須賀川市認知症初期集中支援チームが支援を行っている。行方不明になった場合の対策としては、すかがわ見守り・SOSネットワーク推進事業、QRコードの付与、GPS機器貸与事業を実施している。また、認知症ケアパスを作成し啓発を図り、認知症カフェの運営支援等も行っている。



鈴木 正勝

令和2年度予算編
成方針と財政計画
の見通しについて

問 防災、減災の対策に係る予算を強化していくべきと考えるが。

答 今後は、今回の台風第19号災害を踏まえ、新年度の予算編成を初めとした今度の予算編成の中で、国の動向を注視しながら、可能な限り防災減災対策経費の予算化を図る考えである。

問 公共施設等総合管理計画における個別計画策定に合わせた財政計画に見直しをする考えは。

答 これら計画の実効性を高めるためには、財政負担の平準化を図る必要があるため、個別施設管理計画の進捗状況を勘案しながら、財政計画を毎年度見直す中で対応。

全世代・全対象型地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みについて

問 システム構築に向けた体制の強化は。

答 福祉部門を中心に全庁的な取り組みを進めてまいる考えである。

問 地域支え合い会議の今後のあり方は。

答 これまでの公民館単位での開催から、町内会、行政区単位での開催とし、きめ細やかに対応。

問 通いの場において「ウルトラ長寿体操」の参加率と参加向上対策は。

答 高齢者全体の約1・2%の参加率。通いの場の実施箇所を増やしていく取り組みを行うとともに、チラシ配布などにより、参加者の増加に努める。

問 多機関の協働による包括的相談支援体制構築への取組状況は。

答 包括的相談支援窓口を、令和2年4月から社会福祉協議会に委託して開設する予定。

12人の議員が市政に対する一般質問を行いました

災害対策について



大柿 貞夫

問 小作田、市野間地区の浸水被害について阿武隈川に係る未整備区間の整備要望はどのように行っているのか伺う。

答 阿武隈川上流改修促進期成同盟会において毎年、国・県に対し要望活動を行っている。発災後、阿武隈川上流緊急治水対策出張所を設置したことから検討されるものと考えている。

問 小作田字荒町地区内では、取上川の洪水氾濫によりたびたび浸水被害が発生しているが、取上川の整備について伺う。

答 地元から浸水被害軽減のため堤防整備の要望があり、県市長会を通じての要望や県とのまちづくり意見交換会で堤防の早期整備を要望したところである。

問 小作田橋の架け替え計画はあるのか伺う。

答 県では、現時点での架け替え計画はないが、小作田橋の橋台が水位上昇の際にその流れを阻害するため、河川改修は必要との考えである。

問 防災無線は聞き取りづらいとの問題があり、室内でも聞き取ることが出来る戸別受信機の配布について考えを伺う。

答 浸水想定区域や土砂災害警戒区域の状況、更に避難行動要支援の状況等を勘案し、国の補助制度や支援措置の動向を踏まえ検討を進める考えである。

問 避難所、消防屯所の見直しについて伺う。

答 避難所は今回の浸水状況等を検証した上で、避難所や避難ルートを見直すことにしている。被災した消防屯所については、地元の町内会、行政区や消防団と対応方針について協議していく考えである。

卸団地の水害対策について



加藤 和記

問 市が主体となつて、卸団地を水害に遭わない高台に移転することが何よりの対策ではないかと考えられるが、当局の考えを伺う。

答 団地内に立地している各事業所の意向や、他の被災事業所の状況などを総合的に勘案しながら検討していく考えである。

持続可能な本市の稲作について

問 稲作の持続のための担い手育成に向けて、人・農地プランを活用した集落営農への対応や、担い手支援のためのカントリエレベーターの導入について伺いたい。

答 集落営農については、7組織を支援しており、今年度は1組織が法人設立に向けて先進地等の視察活動に取り組んでいるところである。また、カントリエレベーターを持続的に経営するために、地域の生産組織の整備や強化が必要であり、事業主体となる農業団体などの意見を聴取するとともに、連携を図りながら対応する考えである。

問 圃場整備完了エリア内の未整備道路の整備に向けた対応を伺う。

答 優先順位の検討を行い、農業土木事業補助金と多面的機能支払い交付金事業を活用して支援していく考えである。

問 稲作を安定させるための戦略作物の導入について伺う。

答 転換作物の導入は中・長期にわたる課題として捉えており、生産者や生産者団体の意向、供給体制整備を踏まえ推奨することが必要と考えている。



災害対応について



堂脇 明奈

問 避難所の環境や運営に関わる問題は様々ある。事前に対応を講じることによって、被災者に配慮し、不安を少しでも解消することが出来る。

今回の台風第19号において、災害協定により避難所に使用された物資はどのようなものがあつたか伺う。

答 避難所で使用された物資は、畳や段ボール間仕切りなどであつた。

問 近年の災害で課題となっているのがペット同伴の避難である。ペット同伴の避難についての考え、また、乳幼児のいる世帯の避難について考えを伺う。

答 他の避難者への支障がないよう留意しながら、施設の状態に応じて柔軟に対応している。不特定多数が緊急的に共同生活を営む特殊な環境であることから、環境省で定めるペットの救援対策ガイドラインに従い、飼い主の責任において避難するよう周知していく考えである。乳幼児の避難については、基本的には当該地区指定の避難所に避難することとなるが、状況によって福祉避難所に案内している。

問 市内13カ所の防災倉庫の中でも、倉庫が併設されていた避難所は何か。また、避難所とされる公共施設に防災倉庫を設置すべきと考えるが市としての考えを伺う。

答 併設されている避難所は3カ所であつた。公民館には、計画的な設置を進めている。学校における防災倉庫の設置は、スペースの確保や備蓄品の管理も含めて、施設管理者と協議の上、検討していく考えである。

その他の質問項目

- ①児童生徒に対する被災対応について
- ②企業誘致における雇用創出について



溝井 光夫

学校施設の整備について

問 昭和40年代に建てられた体育館では、近年改築された体育館と比較すると規模が小さいところが多く、特に児童生徒数が急激に増加した学校では狭いと感じる。この現状をどのように認識しているのか伺う。

答 児童生徒が急激に増加した学校については、校舎の増築等が優先され体育館の改築までは至らず、体育館の広さが十分とは言えない学校もあると認識している。

問 今後の整備計画をどのように考えているのか伺う。

答 現在、市が所有する全施設の公共施設等個別施設計画を今年度から2カ年度で策定中であり、計画策定終了後、本計画に基づき進める考え

である。

問 音響設備が古い体育館では早期に更新すべきと思うが考えを伺う。

答 学校からの要望等により現地調査を行い、市内小中学校全体での緊急性や重要度を勘案して対応したい。

問 急斜面の除草やフェンス外側の雑木、蔓などの除去は、事故防止の観点からも業者に委託すべきと思うが考えを伺う。

答 敷地内の樹木は、倒木や枯れ枝の落下など危険があると判断した場合

は業者に委託し伐採している。除草についても地区住民からの要請や面積の広い急傾斜地で、学校からの要望のあった場所は、状況を確認のうえ実施しており、引き続き緊急度を勘案し対応したい。

その他の質問項目

①除雪対策について



石堂 正章

中心市街地活性化について

問 商店街を維持しながら活性化するため、後継者を創出するという観点で、創業を目指す方々が店舗を出店するための創業支援策について伺う。

答 創業希望者への支援策としては、まちなか出店推進事業補助金、スタートアップ資金融資などがあり、チャレンジ・ショップを設置し、中小企業診断士によるアドバイザーを通じて、「まちなか」での創業につながる支援を実施している。

地域コミュニティ活性化について

問 町内会・行政区の運営で、町内会長・区長から課題や要望などが寄せられているのか、そして、どのような支援策を講じているのかを伺う。

答 嘱託委員会会議などでの意見交換や、町内会・行政区へのアンケート実施により、役員・会員の高齢化や役員の担い手不足などの課題、集会場施設などに関する要望について把握している。また、ふるさとづくり支援事業やコミュニティ助成事業、地域づくりアドバイザーによる相談体制や支援の充実を図っている。

住環境の改善について

問 住宅地における空き家状態の問題は、近隣住民が日常的に感じる、防犯上や安全上の事柄であるが、発生した問題への対策・対応について伺う。

答 特定空き家等判定委員会が、特定空き家と判定したものは、不良空き家等解体補助金などの周知・活用により空き家の解消を図っている。また空き家問題は多岐に渡るため、建築住宅課を総合的な窓口として、関係部署と連携しながら、問題や相談に対応している。



市村 喜雄

都市計画事業について

問 都市計画を進める上で、時代とともに変化するニーズを捉え、都市経営の観点で都市計画道路などを見直すことも必要と考えるが当局の考えは。

答 現在の都市計画の方針は、コンパクトプラスネットワークであり、地域の拠点を中心として、コンパクトで効率よく各地をつなぐネットワークに変化してきている。道路ネットワークについても、未整備の都市計画道路等の見直しは、今後検討する。

都市のスポンジ化対策について

問 街中の低未利用地の空間が相当程度地域内で発生し、街のスポンジ化が懸念されているが、

どのように考えているか。

答 本年度公表の立地適性化計画の中では、低未利用地の土地利用指針を示しており、空き地、空き家の解消に取り組む。

課題解決に向けた取り組み手法について

問 都市のスポンジ化による衰退を防ぐため、行政が能動的に動くことで、低未利用地の活用が図られるが、どのように考えているか。

答 スポンジ化の課題は行政だけでの解決は困難であると考えている。民間主導によるまちづくりを推進する法的措置が施行され、都市再生推進法の指定を受けたまちづくり会社等は、国から直接補助等を受けながら計画を進めることができるようになり、民地の部分を整理でき、民間主導の街づくり制度を用い、市とまちづくり会社等が協働で民有地の土地利用を図る。



佐藤 栄久男

複式学級のあり方について

問 複式学級が編成される基準は。

答 法律に基づき、小学校では、二つの学年の児童数の合計が1年生を含む場合は8名以下、2年生以上の場合には16名以下で編成する。

問 今年度、複式学級が編成されている学校と学級数、また、複式学級を編成する学校が今後増えるのかについて伺う。

答 西袋第二小に1学級、小塩江小に2学級、大森小に1学級の計4学級。また、今後5年間は増える見込みはない。

問 教育現場における対応策として、児童たちに学習内容を十分身に付けさせるためにどのような対応をしているのか。

答 担任外の教員を副担任とし、教科の特質に応じて

可能な限り学年を分けて授業をしたり、基礎学力向上補正教員を配置し、国語や算数など主要教科の授業について学年を分けて行っている。また、音楽や体育、図工などの実技教科では、隣接する学年と合同授業ができるように教育課程の編成を工夫している。

さらに、教科担任制を導入して教師の専門性を生かした指導を行うなど、各学校が創意工夫しながら教育活動を行うことで、子供たちに学習内容が十分身につくように努めている。

問 教育委員会では子供たちの教育活動を充実させるためにどのような対応をしているのか。

答 学校訪問などの機会に教育活動の様子を参観し、少人数の良さを生かし、児童一人一人に寄り添ったきめ細やかな対応を行うよう指導している。

また、基礎学力向上補正教員の配置を県教育委員会に要望している。

さらに、小小連携の取り組みなどによる小中一貫教育のメリットを生かした教育活動を推進できるように取り組んでいる。



大寺 正晃

台風第19号被害の対応と課題について

問 館取町内水排水ポンプ場が水没したが、今後どのように復旧するか。

答 公共災害復旧事業により、ポンプ操作盤、発電機の復旧と合わせ、再び被災することがないよう新たに止水壁を設置する予定である。

問 館取町地内の内水排水対策について見直しを考えているか。

答 今回の検証結果などを踏まえて、貯留施設の容量やゲートポンプの能力等を含め、効率的な対策となるよう関係各課と連携して全体計画の見直しを行う考えである。

問 館取町付近の釈迦堂川の整備状況は。

答 県に確認したところ、館取町付近は暫定断面での整備は完了して

いるが、将来的には川底を下げる計画であるとのこと。県に対して、今回の事象を踏まえ、釈迦堂川からの越水箇所や範囲を調査及び特定し対応するよう働きかけているところである。

問 今回の災害を踏まえ、釈迦堂川の堤防をかさ上げするなど、河川整備を見直して早急の実施されるべきと考えるが、本市としては、国・県に申しどのよう要望しているか。

答 釈迦堂川の整備については、国が管理する国道4号から下流部分と阿武隈川の整備が前提となることから、これまでも国に対し早期の河川整備を要望してきた。今回の災害による被災の現状を訴え、引き続き河川管理者である国・県に対し、計画断面による整備が早急に実施されるよう強く要望する考えである。



広瀬 吉彦

企業誘致等について

問 J工跡地について、物流エリアと製造エリアの事業進捗状況は。

答 令和2年2月に施設の建設工事に着手し年内完成を目指す。テナント入居事業者についてもおおむね決定している。製造施設ゾーンについては大規模区画での要望が多く、6区画を2区画ないし3区画で分譲を検討している。

問 雇用者確保の支援策は。

答 市内居住者の新規雇用で一人あたり50万円、市外居住者は15万円を操業開始から3年間交付する。

問 市外の方に対する奨励金額を増やしたらどうか。

答 雇用環境を総合的に勘案しながら検討する。

問 滑川地区工業団地の今後のスケジュールは。

答 農地法や都市計画法などの関係法令をクリアすることに時間を要し、当初想定していた整備時期での実施が難しい状況である。

問 遅れている原因として、具体的に何が課題となっているのか。

答 農用地区域の除外、農地転用及び県中都市計画区域マスタープランとの調整などである。

問 既存誘致企業、もともとの地場企業に対して更なる支援策は。

答 振興会議での審議を踏まえ支援に取り組む考えである。

福島空港の利活用について

問 空港の経済波及効果をどうとらえているか。

答 相應の経済波及効果を生み、存在意義も大きいと考えている。

問 訪日誘客支援空港としての外国人客対応について伺う。

答 受け入れ環境の更なる充実を図っていく。

問 LCC各社に対するエアポートセールスは。

答 関係団体と一体となって取り組んでいく。

その他の質問項目

- ①企業が求める人材の育成について
- ②翠ヶ丘公園の利活用について
- ③公共施設運営について



会派紹介

須賀川市議会では、3人以上を正式な会派としており、3人未満は政務活動費支給に限って認めている会派で、「無会派」と表記しています

新政会

昨年9月に新しい議会がスタートし、新しい会派がスタートしました。会派名は「新政会」です。

元号が令和になり、新しい時代となりましたが、これからの議会は、人口減少、高齢化社会等に向け、難しい運営をしていかなくはなりません。会派名「新政会」には、そうした状況の中、しっかりとした政策を考え実行できる会派を目指す、という意味が込められています。

会員は新人3名を含む10名で、年齢は40代から60代までの幅広い構成になっています。新人議員に対しては、議会の慣例、質問の仕方などを先輩議員が良く指導しています。また、議案調査の手法や議案の考え方など、議員としてやるべき事をしっかりと指導できる体制になっています。

昨年の台風第19号災害では、災害発生時から速やかに被害調査を行い、会派としてまとめた



彦吉(代表) 幸美二章男善記雄勝
藤秀一洋正久勝和喜正
瀬尾木堂藤田藤村木
広 齊 浜 鈴 石 佐 本 加 市 鈴

緊急要望書を、市当局に対し4回提出してまいりました。また、次年度予算編成に向けての予算要望も市当局に提案するなど、積極的に活動しています。

今後、市議会議員としての役割を認識し、誠実で謙虚により良い市政発展に向けて会員一同努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。

志政会

昨年の改選により、新人4名が加わり9名となりました。市民の皆さまの負託に応えるべく研鑽してまいります。

昨年の台風第19号豪雨により多大なる被害を受けられた皆さまに対し、お見舞いを申し上げますと共に、一日も早く元の生活に戻れることを願っております。私たちは、一日も早い復旧と、安心して生活ができる環境整備に努めてまいります。

昨年10月30日には市当局に対し、水害支援に向けた緊急要望と、令和2年度の予算編成に向けた要望書を提出いたしました。本年1月14日には、市民の皆さまに会派だよりをお届けしたところでした。今後も、市民の皆さまに寄り添い、安心して生活できる社会づくりに向け取り組んでまいります。

私たちは、地方自治の役割は、その地域が継続して安全に安心して暮らすことができる環境を整備していくことであると考える



二彦(代表) 幸史夫聡晃伸司
瞭邦勝裕貞正嵐
藤橋谷野柿藤寺十内
佐高熊小大安大五大

しております。本市の事業遂行に対し、監視と提言をもとに議論し、結論を導き出す議会活動を進めるとともに、議会人として時代ニーズを見極め、最良の判断をしてまいります。

最後になりますが、本年は、東京オリンピック・パラリンピック開催の年です。本市においては、3月28日に聖火リレーが実施されることから、市全体の盛り上がりの一助となることを願っております。

須賀川未来会議

令和元年台風第19号により被災された皆さまに、お見舞い申し上げます。

私たちの会派は1期目1名、2期目2名による3名で構成している会派です。

これまで9月と12月定例会が開催されましたが、会派で議案提出の背景や内容などについて、現地や担当課に聞き取るなどにより調査し、統一見解で議会に望んでいます。

昨年の台風第19号による被災状況についても、10月13日午前中に市内を回り、午後からは福島県須賀川土木事務所を伺い被害状況の説明を受けました。

さらには、会派で被災者の声を集約し、10月30日に早期の生活や事業再建に向けた要望書を市へ提出しました。

今年2月7日、8日に「人口減少社会における出産と子供・子育て支援政策の問題点と課題」「医療保険制度の財源と給付から検証する地域・世代・保険者間

格差」についての研修会に参加しました。

今後も、須賀川市が抱える課題を見据えた研修会や講演会などに積極的に参加し、「市民生活の向上」「安心・安全なまちづくり」に努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

溝井 光夫
(代表)
深谷 政憲
大河内和彦



日本共産党須賀川市議団（無会派）

2期目の横田洋子、新人の堂脇明奈の女性議員団です。

私たちは、「8時間働けばふつうにくらせる社会」「くらしを支える社会保障を築く」「お金の心配なく学び、子育てできる社会」を目指し、市民が主人公の市政を実現するために努めています。市民の皆さまの声をしっかりと受け止め、社会の厳しい生活状況を感じ、その実態を市政へ届け改善へと力を尽くしていきます。さらに、だれもが尊厳をもつて自分らしく生きられるジェンダー平等社会の実現へ向けて全力を挙げていきます。

医療や介護、子育て、地域振興や災害対策など、住民にとって最も身近な行政である地方自治体が、「住民福祉の機関」として果たす役割はますます重要です。日本共産党は、憲法がうたう「地方自治の本旨」に基づき、地方自治体の自主性と、その取り組みに必要な財源を保障するとともに、地域住民のくらしを

守り、地域の再生を目指す取り組みを進めています。その政策に基づき、私たちは、議案に対して市民目線でチェックし、今後は是々非々の姿勢を貫きます。また、女性目線できめ細かな議員活動を行っていきます。議会のお知らせは「かけあるき」や「市議会だより」を作成して、皆さまへお届けしています。生活相談も行っています。

横田 洋子
(代表)
堂脇 明奈





トピックス～議会活動報告～

岩瀬地方市町村議会議員大会

岩瀬地方市町村議会議員大会は、10月30日にグランシア須賀川で開催され、須賀川市、鏡石町、天栄村の3市町村の議員46人が参加しました。

大会では、岩瀬地方の課題について各議会から提出された議案を審議し、議決された内容を、岩瀬地方市町村議長会を通じて、県及び県議会に提出する「実行運動」を実施しています。



●天栄村議会から ①国道118号の整備促進②国道294号の整備促進③県道白河羽鳥線の整備促進

●鏡石町議会から ①一般国道4号鏡石町区間の4車線化整備促進②土地改良事業における地元負担の軽減と早期事業の着手③石綿セメント管更新事業に係る補助事業の復活

●須賀川市議会から ①原子力損害賠償の確実な実施及び迅速化②生活バス路線に対する支援措置③企業誘致の推進

以上、全9議案が提出され、その全てが可決されました。

記念講演では、「自治体における働き方改革と地方議会議員」との演題で、合同会社WLB C 関西執行役員の福井正樹先生から講演がありました。

働き方改革の必要性や、議会における業務効率化について提言があり、大変興味深い内容でした。

福島県市議会議員研修会

福島県市議会議員研修会が、郡山市のホテル華の湯で行われました。講師に早稲田大学マニフェスト研究所事務局長の中村健氏を招き、「地方創生は議会からはじまる」人口減少×5G時代に議会はどう挑むのか？」について講演をいただきました。

時代は常に変化しており、住民ニーズを把握するための議会活動が必要であるとし、次のとおり事例紹介がありました。

●秋田県上小阿仁村 人口減少に対応し、自動運転の乗り合いバスを運行

●岩手県久慈市 地元議員の持つノウハウを生かした、ICTによる災害情報の共有化

●長崎県小値賀町「町民と共に歩む議会」を具現化するため、一般質問に関して傍聴者が意見を述べる時間を設定

このように、議会は地域課題を解決し、地域の未来を創造する役割を担っています。今後、

ますます進展する人口減少社会において、これまで予想もしなかった分野にまで市民ニーズが発生することも考えられます。これからの5G時代において、議会が「ワンチーム」となり、情報の発信と収集、そして共有を図る必要性を感じました。

市民の皆さまと共に歩みながら、須賀川市の未来像を描き、活動してまいります。



12月定例会の審議結果をお知らせします！

議案等番号	件 名	結果
124	固定資産評価審査委員会委員の選任につき同意を求めることについて	◎
125	専決処分の承認を求めることについて	◎
126	須賀川市道路占用料徴収条例等の一部を改正する条例	◎
127	須賀川市会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例	◎
128	須賀川市部設置条例	◎
129	地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例	◎
130	須賀川市法定外公共物管理条例の一部を改正する条例	◎
131	市道路線の認定及び廃止について	◎
132	須賀川市下水道事業経営審議会条例	◎
133	須賀川市下水道事業等に地方公営企業法の全部を適用することに伴う関係条例の整備に関する条例	◎
134	須賀川市公営企業職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部を改正する条例	◎
135	須賀川市下水道事業特別会計条例等を廃止する条例	◎
136	須賀川市下水道条例の一部を改正する条例	◎
137	須賀川市立阿武隈小学校大規模改修工事（一期）のうち建築主体工事の請負契約の変更について	◎

議案等番号	件 名	結果
138	令和元年度須賀川市一般会計補正予算（第5号）	◎
139	令和元年度須賀川市介護保険特別会計補正予算（第2号）	◎
140	令和元年度須賀川市水道事業会計補正予算（第2号）	◎
141	議会の議員に対する期末手当支給に関する条例の一部を改正する条例	○
142	市長等の給与及び旅費並びに教育長の勤務条件等に関する条例の一部を改正する条例	○
143	職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	◎
144	令和元年度須賀川市一般会計補正予算（第6号）	○
145	令和元年度須賀川市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）	◎
146	令和元年度須賀川市介護保険特別会計補正予算（第3号）	◎
147	令和元年度須賀川市一般会計補正予算（第7号）	◎
148	令和元年度須賀川市下水道事業特別会計補正予算（第1号）	◎
議員提案	2 議員の派遣について	◎
報告	17 専決処分の報告について	◎

＜結果の表示記号＞ ◎ 全会一致で可決、同意、承認、採択、了承 ○ 賛成多数で可決、採択
 賛否が分かれた議案等

各議員の賛否一覧

～上の表のうち、賛否の分かれた議案などについて、議員ごとの賛否をお知らせします～

会派等		新政会										志政会								須賀川未来会議		無会派		議決結果			
議員名 議案等 番号	齊藤秀幸	浜尾一美	鈴木洋二	石堂正章	佐藤栄久男	本田勝善	加藤和記	市村喜雄	鈴木正勝	広瀬吉彦	高橋邦彦	熊谷勝幸	小野裕史	大柿貞夫	安藤聡	大寺正晃	五十嵐伸	大内康司	佐藤瞭二	深谷政憲	大河内和彦	溝井光夫	堂脇明奈	横田洋子	賛成	反対	棄権
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	●	●	21	2	0
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	●	●	21	2	0
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	●	●	21	2	0
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	●	●	21	2	0

※ ○は賛成 ●は反対 ※議長（五十嵐 伸）は、採決に加わりません。



3月定例会のお知らせ

3月定例会は、2月20日(木)から3月18日(水)までの28日間開催される予定です。

日 2/16	月 17	火 18	水 19	木 20	金 21	土 22
				① 招集日 【本会議】 (議案一括上程 提案理由説明)	② 議員議案調査	休会
23	24	25	26	27	28	29
休会	休会	議会運営委員会 議員議案調査	議員議案調査	議員議案調査	③ 総括質疑ほか 【本会議】 (総括質疑、議案等の 委員会付託) 議員議案調査	休会
3/1	2	3	4	5	6	7
休会	④ 常任委員会議案調査	常任委員会議案調査	⑤ 一般質問 【本会議】 常任委員会議案調査	一般質問 【本会議】 常任委員会議案調査	一般質問 【本会議】 常任委員会議案調査	休会
8	9	10	11	12	13	14
休会	⑥【委員会】 総務生活常任委員会 産業建設常任委員会	【委員会】 文教福祉常任委員会	【委員会】 予算常任委員会	【委員会】 予算常任委員会	休会	休会
15	16	17	18	19	20	21
休会	【委員会】 予算常任委員会	⑦ 事務整理	⑧ 最終日 【本会議】 (委員長報告、 議案等の質疑・ 討論・採決)			

① 招集日【本会議】
(議案一括上程提案理由説明)
定例会の会期を決定します。また、今期定例会に上程された議案などの提案理由の説明を受けます。

② 議員議案調査
20日に提案理由の説明を受けた議案について、議員が議案の調査をし、今後の審査に備えます。

③ 総括質疑ほか【本会議】
(総括質疑、議案等の委員会付託)
議案に対する議員の総括質疑を行います。また、詳細な審査をするため、付託する委員会を決定します。

④ 常任委員会議案調査
常任委員会に付託された議案などについて、委員会を開催し、議案を調査、今後の審査に備えます。

⑤ 一般質問【本会議】
一般質問(4～6日)では、市政全般の事務などについて質問を行い、市政執行の状況や今後の方針などを確認したり、議員としての意見などを述べたりします。

⑥【委員会】
委員会審査(9～12日、16日)では、各委員会に付託となった議案の内容について、質疑を行いながら細かく審査します。委員会として賛否を決定し、本会議最終日で委員長が審査の結果を報告します。

⑦ 事務整理
議員が、委員会審査の結果を踏まえ議案などに対する賛否を検討します。

⑧ 最終日【本会議】 (委員長報告、議案等の質疑・討論・採決)
各委員会に付託された議案などに関する委員長報告を行い、質疑・討論を実施します。それを踏まえて採決が行われます。また、追加提案や議員提出議案などがある場合は、それらについても審議します。

次号の「議会だより」は、5月15日の発行予定です。

委員長 溝井 光
副委員長 堂 洋
委員 齊藤 明
委員 高橋 秀
委員 斉藤 幸
委員 熊谷 一
委員 小野 裕
委員 史 幸
委員 美彦 幸
委員 奈二 夫

議会広報常任委員会

(委員 堂脇明奈)

本年も、議会が皆さまの身近に感じられる紙面づくりを目指してまいります。

また、震災から9年となりますが、昨年は甚大な台風被害を受けました。復興・復旧に力を注ぎ、一日も早い生活再建に取り組んでまいります。

新しい年となりました。今年も、東京オリンピック・パラリンピック開催の年です。3月28日、再び聖火が須賀川市を通過します。みなさんともに盛り上げていきたいと思ひます。

編集後記